はじめに

各講で、「取り上げた題材の大学」の大まかな学部別入試傾向を説明していますので、参考にしてください（「第四講」のみ、「近世」という枠組みで題材を選定していますので、出典大学ではありませんが、近世が出題されやすい大学の詳細をお伝えしています）。本講座で第一志望の学部の傾向をしっかり掴み、合格を手に入れるように一緒に頑張りましょう！（講義を見終えたら、もちろん、自分が一番行きたい大学・学部の過去問を重点的にやるべきですが、万一それが終われば、まずは同じ大学の他学部の過去問を、そして、さらにそれが終われば、数多くいろいろな大学の過去問をやること）。

＊本講座は「文法」・「読解のルール」が理解できていることを前提に講義をしています。

予復習・授業の受け方について

各講の動画を見る前に、必ず該当講の予習をすること。予習が終われば、時間をあけずに該当講の動画を見て下さい。どうしてその解答を選んだのか、根拠を覚えている間に見ることが重要です。講義を見終えたら、復習を必ずすること。間違えた問題があった場合は、「なぜ」間違えたのか、その原因になるところをきちんと潰して、次回同じような問題が出たときには解けるようにしていきましょう。「復習問題」がありますが、授業で扱っていない問題がたくさんあるはずです。授業で扱っていないものは、その講で取り上げた題材の大学の他学部の過去問です。「復習問題」というよりは「チャレンジ問題」という位置づけで解いてください。もちろん解説があるので、実施後にきちんと読むこと。あとは、解答解説に重要単語も載せていますので、そこに掲載されている単語（特に太字）は完璧にしてくださいネ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目次

第一講　『無名草子』　青山学院大学……p. 3
第二講　『たまきはる』　法政大学……p. 14
第三講　『住吉物語』　中央大学……p. 24
第四講　『折たく柴の記』　法政大学……p. 32
第五講　『源氏物語』　立教大学……p. 41

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講『無名草子』　青山学院大学

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

八十（やそぢ）あまり三年（みとせ）の春秋、いたづらにて過ぎぬることを思へば、いと悲しく、たまたま人と生まれたる思ひ出でに、後の世の形見にすばかりのことなくてやみなむ悲しさに、髪を剃（そ）り、衣を染めて、わづかに姿ばかりは道に入りぬれど、[a]心はただそのかみに変はることなし。年月の積もりに添へて、いよいよ昔は忘れがたく、古りにし人は恋ひしきままに、人知れぬ忍び音のみ泣かれて、苔（こけ）の袂（たもと）乾く世なき慰めには、花籠（はなこ）をひぢに掛けて、朝ごとに露を払ひつつ、野辺の草むらに交じりて花を摘みつつ、仏に奉るわざをのみして、あまた年[b]経ぬれば、いよいよ頭（かしら）の雪積もり、[c]面（おもて）の波も畳みて、いとど見まうくなりゆく鏡の影も、我ながらうとましければ、人に見えむこともいとどつつましけれど、道のままに花を摘みつつ、東山わたりをとかくかかづらひありくほどに、やうやう日も暮れ方になり、たち帰るべきすみかも遙（はる）けければ、いづくにても行きとまらむところに寄り臥しなむと思ひて、「*三界無安（さんがいむあん）、猶如火宅（いうによくわたく）」と口ずさみて歩み行くほどに、最勝光院の大門開きたり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

うれしくて歩み入るままに、御堂の飾り、仏の御さまなど、いとめでたくて、浄土もかくこそと、いよいよ[d]そなたにすむ心も催さるる心地して、昔より古き*御願ども多く拝みたてまつりつれど、かばかり御心に入りたりけるほど見えで、金の柱、玉の*幡（はた）をはじめ、障子の絵まで見どころあるを見はべるにつけても、まづ、[e]この世の御幸ひも極め、後の世もめでたくおはしましけるよと、うらやましく、伏し拝みて立ち出でて、西ざまにおもむきて京の方へ歩み行くに、都のうちなれど、こなたざまはむげに山里めきて、いとをかし。

五月十日余日のほど、日ごろ降りつる五月雨の晴間待ち出で、夕日きはやかにさし出でたまふもめづらしきに、ほととぎすさへ[f]伴ひ顔に語らふも、*死出の山路の友と思へば、耳とまりて、

をちかへり語らふならばほととぎす死出の山路のしるべともなれ

とうち思ひつづけられて、こなたざまには人里もなきにやと、はるばる見わたせば、[g]稲葉そよがむ秋風思ひやらるる早苗、青やかに生ひわたりなど、むげに都遠き心地するに、いと古らかなる檜皮屋（ひはだや）の棟、遠きより見ゆ。

いかなる人の住みたまふにかと、あはれに目とまりて、やうやう歩み寄りて見れば、築地もところどころ崩れ、門の上な

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ども荒(あば)れて、人住むらむとも見えず。ただ寝殿、対、渡殿などやうの屋ども少々、いとことすみたるさまなり。庭の草もいと深くて、[h]光源氏の露分けたまひけむ蓬(よもぎ)も所得顔なる中を分けつつ、中門より歩み入りて見れば、南面(みなみおもて)の庭いと広くて、呉竹植ゑわたし、卯の花垣根など、まことにほととぎす蔭に隠れぬべく、山里めきて見ゆ。[i]前栽(せんざい)むらむらいと多く見ゆれど、まだ咲かぬ夏草の茂み、いと[j]むつかしげなる中に、撫子(なでしこ)、長春花(ちやうしゆんぐゑ)ばかりぞ、いと心地よげに、盛りと見ゆる。軒近き若木の桜なども、花盛り思ひやらるる木立、をかし。

　南面の中二間ばかりは、持仏堂などにやと見えて、紙障子白らかに立てわたしたり。不断香の煙、けぶたきまで燻(くゆ)り満ちて、名香の香などかうばし。まづ、仏のおはしましけると思ふもいとうれしくて、花籠をひぢに掛け、檜笠(ひがさ)を首につらされながら、縁のきはに歩み寄りたれば、寝殿の南、東と、すみ二間ばかり上がりたる御簾(みす)のうちに、箏(しやう)の琴の音ほのぼの聞こゆ。いと心にくく、ゆかしきに、若やかなる女声にて、「いとあはれなる人のさまかな。さほどの年に、いかばかりの心にて[k]いと見苦しげなるわざをしたまふぞ。[l]小野小町がひぢに掛けけむ筐(かたみ)よりはめでたし」など言ふ人あり。

（『無名草子』による）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

注

三界無安、猶如火宅＝この世は安らかなことがないことをいう『法華経』中の文言。

御願＝貴人の発願によって創建された御願寺。

幡（はた）＝仏前の左右に掛ける装飾の施された布。

死出の山路の友＝ほととぎすが、死出の山から来て鳴くという「死出の田長（たをさ）」と呼ばれたことからの言葉。

問一　傍線部ａ「心はただそのかみに変はることなし」と述べられているが、「変はること」がない「心」とは、例えばどのような「心」だと思われるか。最適なものを次の①〜⑤から選べ。

①　仏の道に入りたいと思う心。

②　人と生まれたことを悔いる心。

③　きらびやかな着物など着たくないと思う心。

④　昔のことや知人が忘れられないような心。

⑤　髪の毛が黒く豊かであったことを誇る心。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部ｂ「経」の活用の種類と活用形として正しいものを次の①〜⑤から選べ。

①　四段活用・未然形
②　四段活用・連用形
③　下二段活用・未然形
④　下二段活用・連用形
⑤　ラ行変格活用・未然形

問三　傍線部ｃ「面（おもて）の波も畳みて」とはどのような様子をいうのか。最適なものを次の①〜⑤から選べ。

①　顔がしわくちゃな様子。
②　涙が滝のように流れる様子。
③　野辺の草が波うっている様子。
④　家の外に流れる川の波が激しい様子。
⑤　草に置く露が川波のように流れる様子。

問四　傍線部ｄ「そなた」とはどこをいうのか。最適なものを次の①〜⑤から選べ。

①　東山　②　浄土　③　三界　④　御堂の中　⑤　最勝光院

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　傍線部ｅ「この世の御幸ひも極め、また、後の世もめでたくおはしましける」とはだれのことを言っているのか。最適なものを次の①～⑤から選べ。

① 仏
② 筆者
③ 最勝光院を発願した人
④ 髪を剃り、衣を染めた人
⑤ 「三界無安、猶如火宅」と口ずさんだ人

問六　傍線部ｆ「伴ひ顔に語らふ」の意味として最適なものを次の①～⑤から選べ。

① よく似た顔をしていると言う。
② 一緒にいて雑談をする。
③ 一緒に行きたい顔をする。
④ あたかも誰かがいるように語る。
⑤ 人を誘うような調子で鳴く。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　傍線部ｇ「稲葉そよがむ秋風思ひやらるる早苗」とあるが、それはどのような「早苗」だというのか。最適なものを次の①～⑤から選べ。

① 秋になれば風でなぎ倒されてしまう早苗。
② 冷たい秋風が吹くのがかわいそうに思われる早苗。
③ 稲の葉だけが秋風になびいているように見える早苗。
④ 秋風が吹くようになれば稲穂が実ると思われる早苗。
⑤ 稲穂を散らしてしまう秋風が吹くのを心配している早苗。

問八　傍線部ｈ「光源氏の露分けたまひけむ蓬（よもぎ）」とあるが、これは何の作品を踏まえているか。最適なものを次の①～⑤から選べ。

① 平家物語
② 竹取物語
③ 伊勢物語
④ 源氏物語
⑤ 宇津保物語

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問九　傍線部ｉ「前栽（せんざい）むらむらいと多く」というのはどのような状態をいうのか。最適なものを次の①～⑤から選べ。

①　まばらな植え込みが多く存在する状態。
②　蒸しかえるような植え込みが多く存在する状態。
③　さまざまな種類の植え込みが多く存在する状態。
④　あちらこちらにかたまっている植え込みが多く存在する状態。
⑤　人の気持ちをいらだたせるような植え込みが多く存在する状態。

問十　傍線部ｊ「むつかしげなる中に」の意味として最適なものを次の①～⑤から選べ。

①　むさくるしい感じの中に。
②　恐ろしそうな風情の中に。
③　名前のむずかしい植物の中に。
④　暑苦しそうな様子の中に。
⑤　分け入るのが困難そうな中に。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十一　傍線部ｋ「いと見苦しげなるわざ」とはここでは具体的にどのようなことを言っているのか。最適なものを次の①～⑤から選べ。

①　箏の琴を弾くこと。
②　寝殿の御簾からのぞき見すること。
③　持仏堂の中で名香を焚くこと。
④　ほととぎすに導かれて女たちのいる邸まで来ること。
⑤　野原の草むらから野花を摘むこと。

問十二　傍線部ｌ「小野小町」は『古今和歌集』序で言及されている六歌仙のひとりとされているが、この六歌仙には他に誰がいるか。該当する人物をひとり、次の①～⑤から選べ。

①　紀貫之
②　在原業平
③　清少納言
④　藤原定家
⑤　大伴家持

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　復習問題

①「長月」とは何月か。次の中から正しいものを選べ。

イ　一月　　ロ　四月　　ハ　七月　　ニ　九月　　ホ　十一月

②「あてはかなる」の「あて」を漢字に直すとどうなるか。最適なものを次の中から選べ。

イ　充　　ロ　宛　　ハ　艶　　ニ　仇　　ホ　貴

③「らうたげなり」とはどういう意味か。最適なものを次の中から選べ。

イ　疲れている様子である　　ロ　可愛らしい様子である　　ハ　大儀そうな様子である

ニ　初々しい様子である　　ホ　哀れな様子である

④（向井去来が書いた作品中より）「先師にまみえそめられしより…」の傍線部は誰のことか。最適なものを次の中から選べ。

イ　服部土芳　　ロ　松尾芭蕉　　ハ　河合曾良　　ニ　森川許六　　ホ　孔子

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑤ 次の空欄にはいずれも『源氏物語』の巻の名が入る。最適なものを後の中から選べ。

□にたちそふ恋の煙こそ世には絶えせぬほのほなりけれ
行く方なき空に消ちてよ□のたよりにたぐふ煙とならば

イ　松風　　ロ　梅枝　　ハ　柏木　　ニ　篝火　　ホ　薄雲

⑥ 次の文章を読み、後の問に答えよ。

女やるかたなく恋ひ悶(もだ)へ、（僧の）袖にすがりて送り行く。Ⅰ都をばまだ夜とともに出(い)でしかど、粟田口(あはたぐち)まで行きかかれば、Ⅱ空、しののめに成りにけり。僧、女に言ふ。「いつまでも、つきぬ名残りに侍れど、明けはなれなば、いかばかり余所(よそ)の見る目も見ぐるし。…」

問1 傍線部Ⅰは、能因法師の「都をば A とともにたちしかど秋風ぞ吹く白河の関」（『後拾遺集』巻九）を踏まえた表現であるが、空欄 A に入る一語を次の中から選べ。

イ　霰(あられ)　　ロ　夜　　ハ　涙　　ニ　春　　ホ　霞

問2 傍線部Ⅱとあるが、「しののめ」の時間として最適なものを次の中から選べ。

イ　真夜中　　ロ　午前中　　ハ　昼下がり　　ニ　夜明け方　　ホ　黄昏どき

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講『たまきはる』　法政大学

次の文章は、建春門院（平滋子、後白河天皇女御）に仕えた女性が著した日記文学の一節である。作者が病気で家にこもっている間に、建春門院が発病し崩御したことが書かれている。これを読んで、後の問いに答えよ。

その夏ごろ、久しく籠り居たりし水無月のほどより、御薬の事、大方の世にもおどろおどろしく言ひ騒ぎ、御祈りなど数知らず始まると聞けど、年ごろの御有様、御歳のほどを思ふに、さばかりの事とやは思ひかけし。ただしばしも、所狭き御薬の事を心苦しう、おぼつかなく思ひまゐらするも、静心なし。去年、今年などは、年ごろよりも[a]なつかしううれしき御気色のみ見ゆるに、ただ我が身一つの心地して、日々に*冷泉殿のもとへ申せば、細やかなる御返事にて、「『まことにさぞ思ふらん。有様細かに言へ』と仰せある」などあるに、いとどしき心の中なり。

六月二十六日の夕つ方、あからさま[i]に参りて、*折節なき事思ひ立つよし申す、それも人々のはからひなれば。このほどの事どもに、おはしまし所も変はりて、東の台盤所と言ひし方へ参りたれば、やがて御声も聞こゆ。「このほどは、*御修法どもに、局もみなふたがりてなければ。まことに疾く蒜召して、よくなりたらんに、疾く疾く参らせ給へよ」と仰

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

せらるる御声も、ただ例の同じ事なれば、①ものはかなき心に、何事かはとうち思ひて出でぬ。明くる日よりその事始めて、暑くわびしけれど、文は日毎（ごと）に参らす。

七月七日、堪（た）へがたく暑きに、この事も果てⅱにしむつかしさに、髪洗ふほどに、いかにしたりしにか、心地限りなく損（そこ）なひて、絶え入りなど言ふばかり、人々も騒ぎたりしつとめて、あるかなきかの心地するに、日ごろ、「ただ同じ御事」とのみありつる冷泉殿の返事に、「*はやくにておはしませば、申すばかりなし」とばかりあるを見る心地は、何ⅲにかは似たらん。なべての世、誰（たれ）かは思ひ嘆かぬ人あらん。されど、うち向かひたる人々も、②我が思ふばかり、誰かはあらん。置き所なき心地ぞする。

九日ぞ、人々出（い）だし立てしかば、泣く泣く参りたれば、あやにくに音する人もなく静かなり。近く候ひける人は、日ごろにいたくb困（こう）じにければ、うち臥（ふ）し休むにや、ただおのがどち忍びやかにうち群れ居たれど、物言ふ声もせず。ましてつつましう恥づかしければ、晴るる方もなくて出でぬ。

折節なきその匂ひなど失ひてぞ、御忌（い）みのころ、しばしば候ひし。さきざきは、もとあるを取り捨てて、小さきを植ゑられ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

し萩、女郎花、わがままに所得て、縁の上まで咲きこぼれたる盛りさへ恨めし。

　露消ゆる憂き世に秋の女郎花ことしも知らぬ色ぞ悲しき

それより、女郎花のうとましきこそcあいなけれ。

*常陸とていと若きが、近く馴れ仕うまつりし、ことわりと言ひながら、え堪ふまじき気色なり。通るとて髪のすそを見て、「*これは御手のままな」とて、やがて押しあててうつ臥し臥したるに、いと忍びがたし。

　忘られぬその面影に恋ひわびてわが黒髪を形見とや見ん

その後は、この*養ひ立てし姉のもとに、つくづくと明かし暮らすに、*大方の世に静かならず、波の騒ぎに風のみ頻きつつ、さまざまあわたたしくゆきかはん春秋につけても、心憂しと聞こゆる事のみ多かり。この居たる所も、人の心づかひいと苦しうなりゆくままに、さてもえあり果つまじき故のみ聞こえしかば、母と頼む人も思ひわづらひて、我が身こそあらめ、さすがに老い果てぬ人さへ、かくむつかしき世にまじらはせて、とかく言はれんもあいなしなど思ひ乱れて、二十四になりし冬、今さらにもとの所に帰りにしかば、あやにくにひきかへ見慣らはぬ心地のみして、明かし暮らす。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（『たまきはる』より。文章を一部省略した）

〔注〕

＊冷泉殿　建春門院の姉で、建春門院に仕える女房でもあった。

＊折節なき事　蒜（ひる）（にんにくの類）を服し、養生をすることを指す。家族の勧めにより、作者はこれを行うことにしたが、その間はにおいのため、出仕することはできない。

＊御修法　建春門院の病気回復のために行われた加持祈祷（きとう）。

＊はやくにておはしませば　「危篤でいらっしゃるので」という意味。

＊常陸　作者の同僚の女房。

＊これは御手のままな　「この髪は建春門院がお削ぎになったままですね」の意味。作者の髪は、いつも建春門院が削いで整えていた。

＊養ひ立てし姉　作者を養育した異母姉の京極殿。当時、後白河院亮子内親王に仕えていた。

＊大方の世に静かならず　源平の争乱を指す。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部a「なつかしう」b「困じ」c「あいなけれ」の本文中における意味として最も適切なものを次の中からそれぞれ選べ。

a「なつかしう」
ア　かわいらしく　イ　昔が偲ばれ　ウ　親しみが感じられ
エ　いじらしく　オ　晴れやかで

b「困じ」
ア　疲れて　イ　混乱して　ウ　平静が保てなくなって
エ　とまどって　オ　準備を怠って

c「あいなけれ」
ア　当然だった　イ　哀れである　ウ　筋が通らないことだ
エ　つらかった　オ　不憫である

問二　二重傍線部ⅰ～ⅲ「に」の文法的説明として最も適切なものを次の中からそれぞれ選べ。

ア　格助詞　イ　完了の助動詞「ぬ」の連用形
ウ　断定の助動詞「なり」の連用形　エ　副詞の一部
オ　接続助詞　カ　形容動詞の連用形活用語尾

ⅰ＝　ⅱ＝　ⅲ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線部①「ものはかなき心に」の本文中における解釈として最も適切なものを次の中から選べ。

ア　明日をも知れぬ不安な気持ちで　　イ　修法の効果が上がらない状況に

ウ　弱々しい建春門院のご様子に　　エ　たわいなく、浅はかな考えで

オ　世の無常を思い知りつつ

問四　傍線部②「我が思ふばかり、誰かはあらん」を現代語訳せよ。なお、その際、「我が思ふ」については、どのような思いであるかを明確にすること。

問五　波線部「恨めし」とあるが、作者はなぜそのように感じたのか。その理由を次の形式に従って記せ。

［　　　　　　　　　　　　　　　　］から。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　次の中から本文の内容と合致するものを一つ選べ。

ア　建春門院が病気になり、回復のためにさまざまなことが行われたが、作者は、建春門院が日ごろは元気であることとまだ若いことから、全く心配していなかった。

イ　家にこもっている作者に対し、冷泉殿は、「彼女の気遣いはもっともなことであるから、病状について事細かに伝えよう」と考え、しばしば便りを送った。

ウ　夏のとても暑い日、建春門院は髪を洗っている時に危篤に陥ったが、作者はそれを冷泉殿からの手紙で知り、二日後、悲痛な思いで参上した。

エ　作者の髪のすそまでも建春門院を偲ぶよすがとする常陸の様子に、作者は「彼女も、私の髪さえ形見と思うほど建春門院を慕い続けているのだ」と心を動かされ、さらに悲嘆にくれた。

オ　建春門院の崩御後、作者は姉と暮らし始めたものの、そこも居づらくなり、里に帰ったが、何かとあわただしい姉のところとは違い、昔からなじんだ実家であるため、次第に心が穏やかになってきた。

問七　『たまきはる』は鎌倉時代に書かれた作品である。同時代に成立した作品を次の中から二つ選べ。

ア　万葉集　　イ　方丈記　　ウ　紫式部日記　　エ　栄花物語

オ　古事記伝　　カ　伊勢物語　　キ　和漢朗詠集　　ク　東海道中膝栗毛

ケ　愚管抄　　コ　雨月物語

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　復習問題

① ⅰ「便なくや候ふべからん」、ⅱ「せんずらん」の文法的説明として最も適切なものを次の中からそれぞれ選べ。

ⅰ「便なくや候ふべからん」

イ　形容詞「便なし」の連用形＋間投助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の連体形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の終止形

ロ　形容詞「便なし」の連用形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の終止形

ハ　形容詞「便なし」の連用形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の連体形

ニ　形容詞「便なし」の未然形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の連体形＋助動詞「べし」の連用形＋助動詞「む」の連体形

ホ　形容詞「便なし」の未然形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の連用形＋助動詞「む」の終止形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ⅱ　「せんずらん」

イ　動詞「す」の未然形＋助動詞「むず」の終止形＋助動詞「り」の未然形＋助動詞「む」の終止形

ロ　動詞「す」の未然形＋助動詞「むず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形

ハ　動詞「す」の未然形＋助動詞「む」の終止形＋助動詞「ず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形

ニ　動詞「す」の未然形＋助動詞「む」の終止形＋助動詞「ず」の終止形＋助動詞「り」の未然形＋助動詞「む」の終止形

ホ　動詞「せんず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形

② 次の傍線部ⅰとⅱの「なむ」の文法上の説明として正しいものを後の中からそれぞれ選べ。

「世をそむきⅰなむ」とのたまひければ、「名高くおはする君だちにおはするに、びんなく侍りなむ」と否び申しけれど、かねて御髪をきりておはしければ…〈中略〉…次の夜、寺の大阿闍梨の房へおはしたりけるとⅱなむ。

イ　強意を表す助動詞「ぬ」の未然形「な」に、推量を表す助動詞「む」がついたもの

ロ　強意を表す助動詞「ぬ」の未然形「な」に、意志を表す助動詞「む」がついたもの

ハ　反語を表す係助詞

ニ　強意を表す係助詞

ホ　詠嘆を表す終助詞

ヘ　他への願望を表す終助詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③
「年ごろ」の現代語訳として最も適切なものを次の中から選べ。
イ　若年　ロ　適齢期　ハ　年配　ニ　多年　ホ　先年

④
『今鏡』と同じジャンルの作品を次の中から一つ選べ。
イ　日本書紀　ロ　吾妻鏡　ハ　古今著聞集　ニ　平家物語　ホ　栄花物語

⑤
『宇治拾遺物語』は鎌倉初期頃成立の説話集であるが、次の中から説話集ではないものを一つ選べ。
イ　今昔物語集　ロ　宝物集　ハ　無名抄　ニ　撰集抄　ホ　古今著聞集

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講 『住吉物語』 中央大学

次の文章は『住吉物語』の一節で、都から住吉の浜へと追いやられた姫君を、少将が探して歩く場面である。これを読んで後の問に答えなさい。

さらぬだに、旅の空は物あはれなるに、夕波千鳥あはれに鳴き渡りて、岸の松風物寂しき空に、箏（しやう）の琴の音ほのかに聞こえけり。その声、盤渉調（ばんしきてう）に調べて、けだかく澄みわたりけり。「(1)あなゆゆしの、人のしわざにはよも」などと思ひながら、その音に誘はれて、何となく立ち寄りて聞けば、釣殿の西面に、若き声二、三人がほどしけり。琴かき鳴らし、「松風、波の音も(2)なつかしく、あはれ、都の人にかかる所を見せばや」などと語らひつつ、「秋の夕べはあはれなるに」など言ひて、何となき古歌をながめけるを、侍従に聞きなして、あなあさましと、胸うち騒ぎ、心をとどめ聞きたまへば、いま少し忍びたる声して、

(3)尋ぬべき人もなぎさの住の江にたれ松風の絶えず吹くらん

とながめ(4)たまふを、聞きたまへば、姫君の御声と聞きなして、「あなゆゆし、(5)仏の御しるしはあらたなる御ことにて」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

とうれしくて、簀子（すのこ）に立ち寄りてたたけば、侍従、「あやし、たれなるらん」とのぞけば、寄りかかりたる姿の、夜目にもしるくて、「(6)あさましや、少将殿のおはしたるぞや。いかが」と申せば、姫君、「あはれにもおはしたるにこそ。さりながら、人聞きあしかりなん。我はなしと申し聞こえよ」とあれば、侍従出（い）で会ひて、「こはいかに、あやしの所までおぼし立たせ(7)たまへるぞや。そののち、姫君を失ひまゐらせて、慰みがたさに、かくまよひはべるなり。見まゐらせさぶらへば、いよいよ昔恋しくこそ」とて泣きはべる。

「侍従の君のことをこそしのびしに、恨めしくものたまふものかな。(8)御声までうけたまはりさぶらふに。おぼろけにてや、尋ね来たりつる。かく参りたるをば、あやしき武士（もののふ）なりとも、あはれと思はぬ人やさぶらはん。よしよし、さらば帰りなん」とて、直衣（なほし）の袖（そで）を顔に押しあてて、「憂きもつらきも、知らせたまはぬにこそ」とて嘆きはべれば、侍従ことわりと思ひて、「さるにても、足やすめさせたまへ。都のことの恋しくはべるに」とて、尼君に、このよしを言ひあはすれば、「ありがたき御ことにこそ。たれたれも、あはれを知りたまへかし。まづこれへ、入らせ(9)たまふべきよし申せ」とて、侍従、「馴（な）れ馴れしくなめげなれども、その昔のゆかりなれば、さのみこそ。疾（と）く立ち入らせたまへ」と申しければ、少将入りた

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

まひぬ。

（『住吉物語』による）

注
盤渉調……雅楽の調子の名。
ながめける……和歌を詠じた。
侍従……姫君の付き人。
尼君……姫君・侍従の居所の主。

問一　傍線（1）「あなゆゆしの、人のしわざにはよも」、（2）「なつかしく」、（5）「仏の御しるしはあらたなる御ことにて」、（6）「あさましや」の解釈としてもっとも適当なものをそれぞれA～Dの中から選べ。

（1）あなゆゆしの、人のしわざにはよも
A　ああ、美しい音色だ。この人の技術は信じられないほど優れている。
B　ああ、けたたましい音色だ。これは人間の耐えられるものではない。
C　ああ、不吉な音色だ。これは人間の奏でている音色だとは思えない。
D　ああ、優美な音色だ。あの方がお弾きになっている音色に違いない。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（2）なつかしく

A　馴れ馴れしくて
B　昔が思い出されて
C　上品な美しさで
D　慕わしくて

（5）仏の御しるしはあらたなる御ことにて

A　御仏のお導きがまたあったことで
B　御仏の霊験はあらたかなことで
C　御仏の御利益は初めて体験したことで
D　御仏の仰せがあるとはもったいないことで

（6）あさましや

A　驚いたことだ
B　あきれたことだ
C　品性がいやしいことだ
D　喜ばしいことだ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　次のア～オは傍線（3）の和歌に関する説明である。適当なものに対してはA、不適当なものに対してはBの符号で答えなさい。

ア　この歌は、私を訪ねてきてくれる人などいないだろうという姫君の寂しさを述べたものである。
イ　この歌は、私が思う人はいったい誰のことを恋しがっているのだろうという、姫君の落胆を述べたものである。
ウ　この歌は、ふるさとである住吉に訪ねたい友人がいない、姫君の悲しみを述べたものである。
エ　この歌には、「なぎさ」と「無き」、「松」と「待つ」などの掛詞の技法が用いられている。
オ　この歌では、「松風の」が「絶え」にかかる枕詞として用いられている。

ア＝　　イ＝　　ウ＝　　エ＝　　オ＝

問三　傍線（4）「たまふ」、（7）「たまへ」、（9）「たまふ」は、誰に対する敬意をあらわしたものか。もっとも適当なものをそれぞれ次の中から選べ。ただし、同じものを繰り返し用いてもよい。

A　姫君　　B　侍従　　C　少将　　D　尼君

（4）＝　　（7）＝　　（9）＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線（8）「御声までうけたまはりさぶらふに」の意味としてもっとも適当なものを次の中から選べ。

A　侍従さまの御声までこうしてお聞き申し上げましたのに
B　姫君の御声だけを聞きたくて参りましたのに
C　侍従さまの御声だけを聞きたくて参りましたのに
D　姫君の御声まで確かに聞こえましたのに
E　侍従さまの御声まで確かに聞こえましたのに

問五　本文の内容と合致するものを次の中から一つ選べ。

A　侍従は、琴や松風、波の音が大変素晴らしいので、是非都の人たちに見せたり聞かせたりしようと思った。
B　侍従は、姫君を隠した方がよいと判断して、姫君はもう亡くなってしまったと少将に嘘（うそ）をついた。
C　姫君は、悪いうわさが立ってしまったら良くないと思って、はじめは少将に会おうとしなかった。
D　少将は、訪ねて来たのがいやしい武士だから差別をするのですか、と侍従に嘆いてみせた。
E　尼君は、少将も侍従も姫君もとても情け深いことですね、と感心して、少将を招き入れるように指示した。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　復習問題

①「ゆかり」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

イ　ついで　ロ　偶然　ハ　便り　ニ　縁故

②「あやしのいほり」の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

イ　驚くほど立派な隠居所　ロ　おごそかな山荘　ハ　人目につかない隠れ家　ニ　粗末な仮小屋

③「跡をだに形見に見むと思ふ」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次の中から選べ。

イ　屋敷の様子だけでも見て、資盛をしのぶよすがとしようということ。
ロ　屋敷の様子を見て、ある聖の手に渡ってしまったことを実感したこと。
ハ　屋敷の様子を見て、資盛と別れたときのことを思い出したということ。
ニ　屋敷を訪れて、資盛がまだ生きているような気がしていること。
ホ　屋敷を訪れて、ある聖の手に渡ったときのことを思い出したこと。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「ありしよのうらみもきえてしらゆきのふりにしひとぞさらにこひしき」の歌に用いられている掛詞を、漢字二つの組み合わせで示すとしたら、次の中のどれが最も適当か選べ。

イ　「恨」と「裏」

ロ　「白」と「知」

ハ　「降」と「古」

⑤次の傍線部1〜3の文法的説明として、最も適当なものを後の中からそれぞれ選べ。

読経してあ[1]<u>なり</u>。

この人、見しやうなれば、あはれ[2]<u>なる</u>を、…

「年ごろに[3]<u>なり</u>侍りぬ」と奏す。

イ　断定の助動詞　　ロ　形容動詞の語尾　　ハ　伝聞の助動詞

ニ　推定の助動詞　　ホ　ラ行四段の動詞

1＝　　2＝　　3＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講『折たく柴の記』　法政大学

つぎの文章は新井白石『折たく柴の記』の一節である。本文中の「予洲」とは、新井白石の父が仕官していた土屋家の主人頼直をさす。これを読んで後の問いに答えよ。

我二十三歳の夏の頃、ア予洲の家滅びしかば、*前にしるせし事のごとく、イ我が仕への途もおのづからひらけたり。かくて、筑前守紀正俊朝臣にすすめしものありて、二十六歳の三月に、ウ彼の朝臣のもとに出でて仕ふ。一年を隔てて、我二十八歳の秋、*筑州の事おはしまして、その嫡男下総守正仲朝臣、彼のあとをつが①れしかど、不幸の事のみ打ち続きて、後にはエ家人等を扶助すべき事も意のままならず。皆々その禄米を減ぜられしほどに、禄を辞し去るものどももすくなからず。オ我はじめ出で仕へしよりこのかた、彼の父子にしられし身にもあらねど、およそは［A］となり、［B］となれ②るものの、1かかる時に至りて、はなれさるべき事にあらずと思ひ③しかば、わづかに*妻孥の餓ゑをまぬかるるのみにて、2心にもあらぬ仕へにしたがひゐたり。されど、いとま多かる身なりしかば、この時にこそ*経史の類をも渉猟せし事はありつれ。貧は士の常などいふ事あれば、私の事においては、いかにも堪へ忍びしかど、仕へにしたがふ身には、そのほどにつけてなすべき

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

事ども多ければ、つひには財尽き力窮りて、三十五歳といひし春に至りて、ありし事ども書きあらはして、身のいとまを給はるべき由を申す。したしかりしものどもには、かねてよりかく思ひたちし事を語りたりけるに、「禄米あれば、餓ゑに死するまでの事はあらず。かくまで財力尽きはてし人の、禄をも辞して去らむには、一日の餓ゑをすくふべき助けもあらじ。[3]我が身こそかくまで思ひたち給ひたれば、いかにもおはすべき事なれ、若き妻幼き子どもの事をば、いかにし給ふべき」など、いふ事どももありしかど、「[4]頼みし人の不幸の事どももおはしまさずは、我今までかくてはあるべからず。この年頃、堪へがたき事をも堪へ、忍びがたき事をも忍びしは、［A］となしまゐらせ、［B］となりし所を思ひしがゆゑなり。けふ禄辞し去りて、あすは妻孥等皆々はなれ散りな④むをもて、我が志のほどは見ゆべき事ぞかし。天もしものしり給ふ事あらむには、それまでの事もあらじものを」といひけり。*総州もいかに思ひ給ひし⑤にやあるらむ、のたまひ出す旨もなく、春すぎ夏たけて、のたまふ事どももありて、「ただいかにもして我が家を去らむ事、思ひとどまるべし」とありしに、されど、また申す旨ありしほどに、秋の初めに至りて明卿（あきのり）生まれたりけり。

そのほどすぎて、つひに我が請ふ所を許さる。この時におよびて、家に余れる資財をはかり見しに、*青銅三百疋、白米

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三斗には過ぎず。「よしよし、忽ちに餓うるまでも事もあらじ」といひて、妻孥引きぐして、年頃*師檀のゆかりにつきて、高徳寺にゆき至り、やがて浅草のほとりに宅借りて移れり。なほ一僕一婢のあひ随ひしをも、めしつかふべき助けもなし。「いかにもなりゆけ」といひしに、「おのれら習はぬわざをもなして口もらふほどの事をばいとなみなむ。いかでかはなれまゐらすべき」といふなり。かかりしほどに、総州の舎弟のもとより、使ひして、「さておはさんほどは、一家の人、やしなはれん所をばまゐらすべし」といひ贈り給ひたりけり。是は年頃学文の事など、導きまゐらせし所を、思ひ給ひしがゆゑなるべし。思ひがけぬ事も出で来たれば、その秋の末に、居所をも城東に移したりしに、来り学ぶものも日々に多く、しかるべき人々も、就きて学ばれしすくなからず。

（『折たく柴の記』による）

注

*前にしるせし事　土屋家の家中に、頼直の行状が良くないので、かわってその子を当主にしようとする動きがあったが失敗に終わり、白石の父もその仲間と見なされたため、白石も仕官の道を閉ざされた。その後、当主が変わり、白石にもふたたび仕官の道が開けたことを指している。

*筑州の事　筑前守紀正俊が若年寄稲葉正休により江戸城中で刺され、死亡した事件。

*妻孥　妻子、家族。孥は子供。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

＊経史　中国の書物である経書と史書のこと。
＊総州　下総守正仲。
＊青銅　銭の異名。
＊師檀　寺とその檀家。

問一　傍線部①「れ」②「る」③「しか」④「む」⑤「に」の助動詞の意味として最も適切なものを次の中からそれぞれ選べ。

ア　完了　イ　過去　ウ　尊敬　エ　受身　オ　可能
カ　断定　キ　推量　ク　打消

①＝　②＝　③＝　④＝　⑤＝

問二　傍線部１「かかる」は破線部ア〜オのどの内容をさしているか。最も適切なものを次の中から選べ。

ア　予洲の家滅びしかば
イ　我が仕への途もおのづからひらけたり
ウ　彼の朝臣のもとに出でて仕ふ
エ　家人等を扶助すべき事も意のままならず
オ　我はじめ出で仕へしよりこのかた

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線部２「心にもあらぬ仕へにしたがひゐたり」の解釈として最も適切なものを次の中から選べ。

ア　怒りを抑えながら貧しさに耐えていた
イ　不安な気持ちで出仕をひかえていた
ウ　同情を感じながら忠誠を尽くしていた
エ　心ない仕打ちを受けても出仕していた
オ　不本意にも出仕を続けていた

問四　傍線部３「我が身こそかくまで思ひたち給ひたれば、いかにもおはすべき事なれ」の解釈として最も適切なものを次の中から選べ。

ア　あなた自身は、これほどまでに決心されたのだから、どのようにも生きていけましょうが
イ　あなた自身は、このようにしてあきらめられるのなら、どのようにもおなりになれましょうが
ウ　あなた自身は、それほどまでに出世されたのだから、どのようにもお取りはかりいただけるでしょうが
エ　あなた自身は、このように覚悟されたのだから、どのような恥辱にも耐えられましょうが
オ　あなた自身は、このように思い切ってしてしまえば、どのようなお咎めをうけてもよいでしょうが

問五　空欄［Ａ］・［Ｂ］に共通して入る語の組み合わせとして最も適切なものを次の中から選べ。

ア　Ａ父子・Ｂ妻孥　　イ　Ａ妻孥・Ｂ父子　　ウ　Ａ従者・Ｂ主
エ　Ａ主・Ｂ従者　　オ　Ａ家人・Ｂ人家

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　傍線部４「頼みし人」に該当するものを次の中からすべて選べ。

ア　筑前守紀正俊朝臣　　イ　下総守正仲朝臣
ウ　妻孥　　エ　したしかりしものども
オ　かくまで財力尽きはてし人

問七　傍線部５「いかでかはなれまゐらすべき」を二十字以上、三十字以内で現代語訳せよ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

問八　この作品は江戸時代に書かれた随筆だが、次の中から江戸時代に成立した作品ではないものを一つ選べ。

ア　玉勝間
イ　曾根崎心中
ウ　世間胸算用
エ　無名草子
オ　野ざらし紀行

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　復習問題

①「とみのこととて」の解釈として最も適切なものを次の中から選べ。

イ　先に決まっていた予定があるので
ロ　都見物に出かけるので
ハ　遺産相続に関する相談があるので
ニ　火急の用事があるので
ホ　跡目選びの問題があるので

②「年ごろの行ひの徒らになりなん」の解釈として最も適切なものを次の中から選べ。

イ　数年来のつきあいがむなしいものとなった
ロ　長年の修行が無駄になってしまうだろう
ハ　年配の人の経験が役に立たなくなってしまう
ニ　ここ数年の間に親しい人が亡くなってしまった

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「とかくこのよは仮りのよぞ。道心おこせ」の傍線部の「よ」と「おこせ」の漢字の組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選べ。

イ 夜・起こせ　ロ 夜・熾こせ　ハ 世・発こせ
ニ 世・遣こせ　ホ 予・興こせ

④「九日の節」とは何か。正しいものを次の中から一つ選べ。

イ 中秋　ロ 上巳　ハ 踏歌　ニ 端午　ホ 重陽

⑤ 人物伝中心に歴史を語る『大鏡』の中で、派生的なエピソードの語りを受け持つ人物は誰か、次の中から一つ選べ。

イ 夏山繁樹　ロ 侍　ハ 翁　ニ 大宅世継　ホ 媼

⑥『古来風体抄』の筆者とはどのような人物か。合致するものを次の中から一つ選べ。

イ『金葉和歌集』の撰者である藤原顕輔の子で、『詞花和歌集』の撰者である。
ロ『千載和歌集』の撰者である藤原俊成の師で、『金葉和歌集』の撰者である。
ハ『新古今和歌集』の撰者の一人である藤原定家の父で、『千載和歌集』の撰者である。
ニ『金塊和歌集』の撰者である源実朝とは兄弟で、『新古今和歌集』の撰者の一人である。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑦「沙石集」と同じジャンルのものを次の中から一つ選べ。

イ　日本霊異記　ロ　菟玖波集　ハ　愚管抄　ニ　明月記　ホ　無名抄

⑧新井白石の著作として適切なものを、次の中から一つ選べ。

イ　万の文反古　ロ　花月草紙　ハ　折たく柴の記　ニ　英草紙

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講『源氏物語』　立教大学

次の文章は、女房の右近が光源氏と紫の上の御前で、夕顔の遺児である玉鬘（たまかずら）を見つけたことを報告する場面の一節である。これを読んで後の設問に答えよ。

大殿油などまゐりて、うちとけ並びおはします御ありさまども、いと見るかひ多かり。女君は二十七、八にはなりたまひぬらむかし、盛りに清らにねびまさりたまへり。少しほど経て見たてまつるは、またこの(1)ほどにこそ匂ひ加はりたまひにけれと、見えたまふ。(注)かの人を、いとめでたし劣らじと見(a)たてまつりしかど、(2)思ひなしにや、なほこよなきに、幸ひのなきとあるとは、隔てあるべきわざかなと、見合はせらる。(3)大殿籠るとて、右近を御足まゐりに召す。「若き人は、苦しとて(4)むつかるめり。なほ年経ぬるどちこそ、心かはして、睦びよかりけれ」とのたまへば、人々忍びて笑ふ。「さり(あ)＿や。誰かその使ひならひたまはむをばむつからむ。うるさきたはぶれごと言ひかかりたまふを、わづらはしきに」など言ひあへり。「うへも、年経ぬると、(5)うちとけ過ぎば、はたむつかりたまはむとや。さるまじき御心と見ねば、あやふし」など、右近に語らひて笑ひたまふ。いと愛敬づき、をかしきけさへ添ひたまへり。今はおほやけに仕へ、いそがしき御

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ありさまにもあらぬ御身にて、世の中のどやかに思さるるままに、ただはかなき御たはぶれごとをのたまひ、をかしく(イ)人の心を見たまふあまりに、かかる(ロ)古人(ふるびと)をさへぞたはぶれたまふ。「かの尋ね出でたりけむや、何ざまの人ぞ。尊き修行者を語らひて、率て来たるか」と問ひたまへば、「あな見苦し(い)や。はかなく消えたまひにし夕顔の露の御ゆかりをなむ、見たまへ付けたりし」と聞こゆ。「げに、あはれなりけることかな。年ごろはいづくにか」とのたまへば、ありのままには聞こえにくくて、「あやしき山里になむ。(ハ)昔人もかたへは(6)変らではべりければ、その世の物語し出ではべりて、堪へがたく思ひたまへりし」など聞こえゐたり。「よし、心知り(b)たまはぬ御あたりに」と隠しきこえたまへば、うへ、「あなわづらはし。ねぶたきに、聞き入るべくもあらぬものを」とて、(7)御袖して耳ふたぎたまひつ。「かたちなどは、かの昔の夕顔と劣らじ(う)や」などのたまへば、「(8)必ずさしもいかでかものしたまはむと思ひたまへしを、こよなうこそ生ひまさりて、見えたまひしか」と聞こゆれば、「をかしのこと(え)や。誰ばかりとおぼゆ。(ニ)この君」とのたまへば、「いかでか、(9)さまでは」と聞こゆれば、「したり顔にこそ思ふべけれ。我に似たらばしも、うしろやすしかし」と、親めきてのたまふ。

（『源氏物語』による）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（注）
かの人…玉鬘をさす。

問一　傍線部（1）の意味として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　時間　2　距離　3　方向　4　程度　5　身分

問二　傍線部（2）の現代語訳として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　考えが浅かったのだろうか
2　心配しすぎたのだろうか
3　世評に影響されたのだろうか
4　思い込みであったのだろうか
5　軽い気持ちであったのだろうか

問三　傍線部（3）の現代語訳を七字以内で記せ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部（4）の意味として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　すねる　　2　ことわる　　3　いやがる　　4　気味悪がる　　5　腹を立てる

問五　傍線部（5）の現代語訳として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　源氏が右近に親しくし過ぎると
2　紫の上が右近に親しくし過ぎると
3　源氏が紫の上に親しくし過ぎると
4　右近が源氏に親しくし過ぎるので
5　右近が紫の上に親しくし過ぎるので
6　源氏が右近に親しくし過ぎるので

問六　傍線部（6）の現代語訳として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　元気でお仕えしていますので
2　交代もせずに仕えていますので
3　昔と同じ所で暮らしていますので
4　かたわらでずっと控えていますので
5　それなりの暮らしをしていますので

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　傍線部（7）について。なぜ耳をふさいだのか、その理由として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　夜も更けてもう寝たいと思ったから
2　世俗のつまらない話をしているから
3　多くの女性のことを話しているから
4　自分に聞かせたくない話をしているから
5　源氏と右近が楽しそうに話しているから

問八　傍線部（8）の現代語訳として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　まさかこの世には生きていらっしゃらないでしょう
2　決してそれほどは美しくいらっしゃらないでしょう
3　間違いなくあの女性とそっくりでいらっしゃるでしょう
4　きっと何とかそれなりにお暮らしでいらっしゃるでしょう
5　確かにあの女性と同じくらいきれいでいらっしゃるでしょう

問九　傍線部（9）の解釈として最も適当なもの一つを、次の中から選べ。

1　夕顔様ほどにはとうてい美しくありません
2　紫の上様の美しさにはまったく及びません
3　美しいけれども、紫の上様ほどではありません
4　女房たちとは比べものにならない美しさです

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

5　夕顔様とうり二つと言ってよいほどの美しさです

問十　二重傍線部（イ）～（ニ）はそれぞれ誰をさすか。次の中から最も適当なものを一つずつ選べ。ただし、同じ番号を二度以上用いてもよい。

1　光源氏　2　紫の上　3　玉鬘　4　夕顔
5　右近　6　源氏の女房　7　夕顔の女房

イ＝　ロ＝　ハ＝　ニ＝

問十一　波線部（a）・（b）はそれぞれ誰に対する敬意か。次の中から最も適当なものを一つずつ選べ。ただし、同じ番号を二度以上用いてもよい。

1　光源氏　2　紫の上　3　玉鬘　4　夕顔

a＝　b＝

問十二　傍線部（あ）～（え）のうち、他の三つと違う意味用法で用いられている「や」を一つ選べ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　復習問題

①「すべて世にあるべくもさらにおぼえざりければ、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

イ　世間から嫌われてしまったと思わざるをえなくなったので。
ロ　立身出世の見込みがほとんどなくなってしまったので。
ハ　世の中の出来事に全然興味や関心が持てなくなってしまったので。
ニ　この世で生きていこうとはまったく思われなくなったので。
ホ　この世からすべてのことを消し去りたいと思うようになったので。

②「さは今一度相見ではいかでかあらむ」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

イ　もう一度会わないでどうしていられようか。
ロ　会うのはもう一度だけにしたいものだ。
ハ　もう二度と会うことはできないだろう。
ニ　一度会っただけでは気がすまないだろう。
ホ　もう一度会ってみてもどうにもならない。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「あからさまに」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

イ　露骨に　　ロ　ほんの少し　　ハ　大げさに
ニ　やむなく　　ホ　ぜがひでも

④次の傍線部1・2の文法上の意味は何か。後の中から最も適当なものをそれぞれ選べ。

この者どもに養は[1]れて行きけるほどに…
故なく心細く思ひ続け[2]られて、…

イ　受身　　ロ　可能　　ハ　完了　　ニ　尊敬　　ホ　自発

1＝　　2＝

⑤次の傍線部a・bそれぞれの文法上の意味として最も適当なものを、後の中から一つずつ選べ。

いかにすること[a]にかあらむ、…
若い心地に惑ひたまひ[b]ぬ。

イ　完了　　ロ　打消　　ハ　断定　　ニ　存在　　ホ　過去

a＝　　b＝

© RECRUIT HOLDINGS

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

テキスト解答・解説

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第一講】

〔模範解答〕

問一　④　問二　④　問三　①　問四　②　問五　③　問六　⑤
問七　④　問八　④　問九　④　問十　①　問十一　⑤　問十二　②

〔現代語訳〕

八十三年の年月が、無為に過ぎてしまったことを思うと、たいへん悲しく、たまたま人間として生まれた思い出に、来世の形見にするほどのこともなくて命を終えてしまうに違いない悲しさに、髪を剃り、衣を墨染めにして、かろうじて姿ばかりは仏道に入ったけれど、心は少しも出家以前と変わることがない。年月が積み重なるにつれて、ますます昔は忘れがたく、過去の人は恋しいので、人知れぬ忍び泣きばかり自然とされて、僧衣の袂も乾く時がない慰めには、花籠を肘に掛けて、毎朝露を払いながら、野辺の草むらに入って花を摘んでは、仏にお供えすることばかりして、多くの年が経ってしまったので、ますます白髪が増え、顔の皺も増えて、いっそう見たくなくなってゆく鏡に映る姿も、自分でもいやになるので、人に会うようなこともいっそう憚られるけれど、道に沿って花を摘みながら、東山のあたりをあちこち歩きまわるうちに、だんだん日も暮れ方になり、帰らなければならない我が家も遠いので、どこであっても行き着いた所に立ち寄って寝ることにしようと思って、「三界無安、猶如火宅（＝この世は安らかなことがなく、まるで火に包まれた住まいのようだ）」と口ずさんで歩いて行くうちに、最勝光院の大門が開いていた。

うれしくて（門の中に）歩み入ると、御堂の飾り、仏像のお姿など、たいそうすばらしくて、極楽浄土もこのようであろうと、ますます浄土にひかれる心がかきたてられる気持ちがして、昔から古い御願寺をたくさん拝み申し上げたけれど、これほど（発願者の）お心にかなったものは見当たらず、金銀で飾った柱、宝石で装飾の施された幡をはじめ、襖の絵まで見どころがあるのを見ますにつけても、まず、（この最勝光院の発願者は）現世の御幸福も極め、また、来世もすばらしくいらっしゃるよと、う

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

らやましく、（仏様を）伏し拝んで（寺を）立ち出でて、西方に向かって京の方へ歩いて行くと、都の内だけれど、このあたりはひどく山里風で、たいそう趣深い。

五月十何日かの頃で、数日来降った五月雨の晴れ間を待って、夕日がくっきりとさしていらっしゃるのも珍しいのに、ほととぎすまでも人を誘うような調子で鳴くのも、あの世へ連れ立つ友と思うと、耳にとまって、

をちかへり……＝また帰って来て鳴くなら、ほととぎすよ、あの世への道案内となっておくれ。

と自然と思い続けられて、このあたりには人里もないのだろうかと、遠くを見渡すと、稲葉がそよぐであろう秋風の頃（になれば稲穂が実ると）想像される早苗が、青々と一面に生えているあたりなど、ひどく都から遠い気持ちがするが、たいそう古雅な感じの檜皮屋の棟が、遠くから見える。

どんな人が住んでいらっしゃるのだろうかと、風情を感じて目がとまり、だんだん歩み寄って見ると、土塀も所々崩れ、門の上なども荒れ果てて、人が住んでいるようにも見えない。ただ寝殿、対屋、渡殿などのような建物が少々（あって）、たいそう質素に暮らしている様子である。庭の草もたいそう丈高くて、光源氏が露を分けてお入りになったとかいう蓬も得意顔で生い茂っている中を分け入りながら、中門より歩み入って（中を）見ると、正面の庭がたいそう広くて、呉竹を一面に植え、卯の花垣根など、ほんとうに（古歌にあるように）ほととぎすが蔭に隠れてしまいそうで、山里めいて見える。庭の植え込みはあちらこちらにかたまってたいそう多く見えるが、まだ咲かない夏草の茂みが、たいそうむさくるしい感じの中に、撫子や長春花ばかりが、たいそう気持ちよさそうに、今が盛りと見える。軒に近い若木の桜なども、花盛りの頃が自然と想像される木立が、すばらしい。

南面の中央二間ばかりは、持仏堂などだろうかと見えて、紙障子が一面白々と立ててある。絶えずたいている香の煙が、けむたいくらい立ち上り充満して、（仏に捧げる）すぐれた香なども香り高い。何よりも、仏様がいらっしゃると思うのもたいそううれしくて、花籠を肘に掛け、檜笠を首につりさげたまま、縁の端に歩み寄ったところ、寝殿の南、東と、（それぞれの）すみ二間ばかり上がった御簾の内に、箏の琴の音がほのかに聞こえる。たいそう奥ゆかしく、（中の様子を）見たいと思っていると、若やかな女の声で、「たいそうかわいそうな様子だこと。それほどのお年で、どれほどの信心でほんとうに見るのもつらいことをなさっているのですか。小野小町が肘に掛けたとかいう花籠よりは立派です」などと言う人がいる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕

※「敬語」の「重要単語」は文法講座で既出のため、省いています（第二講以降も同様）。

○そのかみ【其の上】…①**その当時**。②過去。昔。
○おもて【面】…①**顔**。②**面目**。③仮面。
○いとど…①**ますます**。②そのうえさらに。
○つつまし【慎まし】…①**遠慮される**。②恥ずかしい。
○しるべ【導・知る辺】…①導き。**案内すること**。また、その人。②知り合い。
○むつかしげなり【難しげなり】…**不快である**。気味が悪い。むさくるしい。
○こころにくし【心憎し】…①**奥ゆかしい**。②恐るべきだ。③不審だ。
○ゆかし【床し】…①**見たい**。**聞きたい**。**知りたい**。②なんとなく**慕わしい**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第二講】

〈模範解答〉

問一　a　ウ　b　ア　c　ウ

問二　i　カ　ii　イ　iii　ア

問三　エ

問四　自分ほど建春門院のことを慕い、その危篤を自分よりも心配するものがいようか、いや、いないだろうと思われる

問五　建春門院が亡くなったのに、その悲しさも知らないような様子で、萩や女郎花が美しく咲きこぼれている（のが恨めしく感じられる）

問六　エ

問七　イ、ケ

〈現代語訳〉

その夏ごろ、（私が病気で家に）長くこもっていた六月ぐらいから、（建春門院様の）ご病気のことについて、世間一般の人もひどく言い騒ぎ、お祈りなども数知れず始まったと聞いたが、長年のご様子と、ご年齢のことを思うと、それほどのこととは予測したか、いや、していなかった。ただしばらくでも、やっかいなご病気のことを気の毒に、気がかりにお思い申し上げているのも、落ち着かない。去年、今年などは、例年よりも親しみが感じられ嬉しいご様子ばかり見えたので、ただ私一人だけの心配事のような気がして、毎日冷泉殿のところへお手紙をさし上げたところ、細やかな心づかいのご返事で、「『本当に（そなたは）心配しているだろう。様子を詳しく知らせてやれ』という（建春門院様の）お言葉がある」などとあったので、ますます（建春門院様を）お慕いする気持ちになるのである。

六月二十六日の夕方、ほんのちょっと参上して、都合の悪いこと〔＝にんにくの類を服して養生することにしたが、その間は

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

においのために出仕できないこと）を思い立ったと申し上げる、それも家人の計らいであるので（従うしかない）。このご病気のために、（建春門院様の）おいでになるところも変わって、東の台盤所と呼んだあたりへ参上したところ、すぐお声も聞こえる。「このほどは、病気回復のために行われた加持祈禱で、部屋はすべてふさがっていて（部屋も）ないので（しかたがない）。本当にはやくにんにくの類を召し上がって、よくなったら、すぐにすぐに出仕せよ」とおっしゃるお声も、ただいつものように同じだったので、たわいなく浅はかな考えで、（ご病気に）何の心配があろうか、いや、ないだろうとつい思って退出してしまった。明くる日からそのにんにくの類による養生を始めて、暑くてやりきれないけれど、手紙は毎日さし上げる。

七月七日、たえがたいほど暑いが、このにんにく養生もすっかり終わった不快さに、髪を洗っているとき、どうしたのだろうか、気分がこのうえなく悪くなり、死ぬなどと言うほどに、家人たちも騒いでいた翌朝は、生きているのかいないのかわからないほどの（衰弱しきった）気持ちだったが、この数日間は、「（建春門院様は）ただ同じご様子です」とだけあった冷泉殿の返事に、「ご危篤でいらっしゃるので、何とも申し上げようがない」とだけあるのを見る気持ちは、何に似ていようか、似るものがないほどに悲しい。世間一般で、思い嘆かない人があろうか、いや、誰もが思い嘆く。しかし、顔を合わせる家人たちも、自分ほど（建春門院様のことを）慕い、その危篤を思い嘆く人はほかにいようか、いや、誰もいないだろう。心の置きどころもない気持ちがする。

九日、家人が（私の）出仕を許したので、泣きながら参上したところ、あいにく声を立てる人もなく静かである。（建春門院様の）近くにお仕えしていた人は、ここ数日の看病にひどく疲れてしまったので、ちょっと横になって休んでいるのであろうか、ただ他の女房たちが数人ずつ集まってしんみりしていたけれど、物を言う声もしない。まして（自分は）気がひけて恥ずかしかったので、気持ちを慰める手だてもなく退出した。

都合の悪い（にんにくの類の）そのにおいなどが消えて、御喪の期間、しばらく伺候した。以前、もとあったのを取り捨てて、小さいのを植えたあの萩や、女郎花が、伸び放題になっていて、縁の上にまで咲きこぼれている盛りまでもが恨めしい。

露消ゆる…＝建春門院様が亡くなってつらいこの世に、秋の女郎花は今年も、そんな事情も知らぬ顔で美しい色に咲いているのが悲しい。

それ以来、女郎花がうとましいのは筋の通らないことだ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

常陸という同僚の女房でとても若い人が、近くで親しくお仕えしていたが、当然とは言いながら、（悲しみに）たえがたい様子である。（私のそばを）通るときに髪の毛先を見て、「これは建春門院様がお削ぎになったままですね」と言って、そのまま押し当ててうつぶしているので、いっそう（悲しみを）がまんしがたい。

忘られぬ…＝忘れられない建春門院様の面影をどうしようもなく恋い慕って（常陸は）私の黒髪を形見と見るのだろうか。

その後は、私を養育した異母姉の京極殿のもとで、しんみりと日々を暮らしていたが、源平の争乱の世は静かでなく、波の騒ぎに風が繰り返し吹いては、様々にあわただしく今後の歳月につけても、心配に思われることばかりが多い。この（私の）いるところも、人の心遣いがとても苦しいものになっていくので、このままいつまでもいつづけるわけにはいかないと思われるので、母と頼りにする人も思い悩んで、自分はよいけれど、そうはいってもやはり年老いていない人までも、このようないやな世の中に奉公させておいて、あれこれ言われるのも感心できないなどと思い乱れて、二十四歳になった冬、今改めて実家へ帰ってしまったので、あいにくすっかり変わって見慣れない気持ちばかりして、日々を過ごすのだった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕

○おどろおどろし…①**気味が悪い**。　②**仰々しい**。大げさだ。

○としごろ【年頃】…**長年**。

○ところせし【所狭し】…①**場所が狭い**。　②**窮屈だ**。　③やっかいだ。　④堂々としている。　⑤仰々しい。

○こころぐるし【心苦し】…①**つらい**。　②**心配である**。　③**気の毒だ**。

○おぼつかなし…①**はっきりしない**。　②**気がかりだ**。　③**待ち遠しい**。

○なつかし【懐かし】…①**心がひかれる**。　②**親しみやすい**。　③昔が思い出されて、慕わしい。

○あからさまなり…①急に。　②**ちょっと**。

○やがて…①**すぐに**。　②**そのまま**。

○つとめて…①**早朝**。　②**翌朝**。

○こうず【困ず】…①**困る**。　②くたびれる。

○ことわり【理】…①ものの**道理**。　②**理由**。

○さすがに…**そうはいってもやはり**。

○あいなし…①気にくわない。　②**つまらない**。　③（連用形の形で）**むやみやたらに**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第三講】

〈模範解答〉

問一　(1) A　(2) D　(5) B　(6) A
問二　ア A　イ B　ウ B　エ A　オ B
問三　(4) A　(7) C　(9) C
問四　D
問五　C

〈現代語訳〉

ただでさえ、旅の心はもの悲しいのに、夕方にうち寄せる波の上に千鳥の鳴き声があたり一面に悲しげに聞こえ、岸の松を吹く風も身にしみて寂しい中に、箏の琴の音がかすかに聞こえてきた。その音色は、盤渉調の音律に合わせて、気高くあたり一面に澄んだ音色で響いた。「ああ、美しい音色だ。この人の技術は信じられないほど優れている」などと（少将は）思いながら、その音色に誘われて、何となく立ち寄って聞くと、釣殿の西側に、二、三人ほどの若い人の声がした。琴をかき鳴らし、「松風や、波の音も慕わしくて、ああ、都の人にこのような（趣きのある）所を見せたいものです」などと語りながら、「秋の夕べはしみじみ物悲しいので」などと言って、さりげない古歌を詠み上げた声を、侍従の声だと聞き当てて、「ああ驚いた」と、胸が騒ぎ、心を静めてお聞きになると、それよりもう少し抑えた声で、

尋ぬべき…＝訪ねてくるはずの人も無い、この渚の住の江で、いったい誰を待つといって松風が絶えず吹いているのでしょうか。

と（姫君が）詠じなさるのを、（少将が）お聞きになると、姫君のお声だと聞き当てて、「ああすばらしい、御仏の霊験はあらたかなことで（ある）」と嬉しく思って、簀子の縁に近づいて戸を叩くと、侍従は、「おかしい、誰でしょうか」と言ってのぞいて

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

みると、（縁に）寄りかかっている姿は、夜目にもはっきり（少将と）わかって、「驚いたことだ、少将様がいらっしゃったのですよ。どう（いたしましょうか）」と申し上げたところ、姫君は、「（少将様は）嬉しくもおいで下さったのですね。しかしながら、他人がこのことを聞くと具合が悪いに違いない。私はいないと申し上げなさい」とおっしゃるので、侍従は出て（少将に）会って、「これはどうして、このような辺鄙な所まで訪ねようと思い立ちなさったのですか。あの後、姫君とお別れ申し上げて、心の慰めようもないので、このようにさまよっているのです。（少将様を）拝見いたしますと、一段と昔が恋しく（しのばれます）」と言って泣きます。

（少将は）「侍従の君のことを懐かしく思っていたのに、恨めしくも（嘘を）おっしゃるのですね。姫君の御声まで確かに聞こえましたのに。いい加減な気持ちで、訪ねてきたのではないのに。このように参上したものを、下賤な武士であっても、しみじみと思わない人がいましょうか。よいよい、では帰りましょう」と言って、直衣の袖を顔に押し当てて、「辛いこともいやなことも、おわかりにならないのでしょう」と言って嘆きますので、侍従はもっともだと思って、「それはともかく、足をお休め下さい。都のことも恋しく思われますので」と言って、尼君に、このことを相談すると、「めったにないありがたいことです。どなたも、物事の情けというものをおわかりなさいませ。まずこちらへ、お入りなさるように（少将様に）申し上げなさい」と言って、（そこで）侍従は、「慣れ慣れしく無礼なようですが、昔のご縁もあることですので、そのままで。早く中にお立ち入り下さいませ」と申し上げたので、少将はお入りになった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔**重要単語**〕

○ゆゆし…①**おそれ多く慎まれる**。②忌まわしい。**不吉だ**。③たいそうである。④**すばらしい**。⑤ひどい。
⑥気味が悪い。⑦勇敢だ。

○ながむ【眺む】…①**もの思いにふける**。②見渡す。じっと遠くを見る。
【詠む】…**詩歌を口ずさむ**。

○あさまし…①**驚きあきれる**。②嘆かわしい。③話にならない。④程度がはなはだしい。

○しるし【徴・験】…①**前兆**。②**霊験**。**ききめ**。
【標・印・証】…①目印。②証拠。③合図。
【著し】…①**きわだっている**。②予想通りだ。

○あやし…①**不思議だ**。②**粗末だ**。③**身分が低い**。

○しのぶ【忍ぶ】…①たえる。②**秘密にする**。③**がまんする**。

○おぼろけなり…①**ふつう**。②**格別だ**。

○うし【憂し】…①**つらい**。②**いやだ**。③にくい。④つれない。

○ありがたし【在り難し】…①**めったにない**。②**すぐれている**。③**生きながらえにくい**。④尊い。

○なめげなり…**無礼だ**。**失礼だ**。

○ゆかり【縁】…**血縁**。親戚。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第四講】

〔模範解答〕

問一　①ウ　②ア　③イ　④キ　⑤カ

問二　エ　**問三**　オ　**問四**　ア　**問五**　エ　**問六**　ア、イ

問七　どうしてこの家を離れ申し上げましょうか、いや、離れられない（二十九字）

問八　エ

〔現代語訳〕

私が二十三歳の夏の頃、予洲の家が落ちぶれたので、前に記したとおり〔＝注釈参照のこと〕、自分の仕官の道も自然と開けた。このようにして、筑前守紀正俊朝臣に（私を）薦めたものがいて、二十六歳の三月に、この朝臣のもとに出仕した。一年が経ち、私が二十八歳の秋に、筑州の事〔＝注釈参照〕がおありになって、その長男の下総守正仲朝臣が、彼の跡をつぎなさったのだが、不幸の事ばかり続いて、後には（正仲は）家人たちを扶助すべき事も思いのままにならない。皆々その禄米を減らされたときに、給料を辞退し去るものたちも少なくない。私は最初に出仕してからこれまで、この親子に知られた身分ではないが、大まかに言って（この二人は私の）主となり、（私は）従者となったが、このような時に至って、（この家を）離れ去るべき事ではないと思ったので、わずかに妻子の餓えを免れるのみで、不本意にも出仕を続けていた。しかし、暇が多い身であったので、この時に経史の類をも読みあさることができた。貧しいことは武士の常などという事もあるので、自分自身の事においては、どのようにでも堪え忍んだが、出仕の身なので、その身分であればなすべき事が多いので、結局財産は尽き力も限界で、三十五歳の春に至って、今までの事なども書き表し、身の暇をいただくべきことを申し上げる。親しかったものたちには、以前からこのように思い立っていた事を語っていたが、（親しいものは）「禄米があれば、餓えて死ぬまでの事はない。ここまで財産が尽きはてた人〔＝白石〕が、給料も辞してもし去るならば、一日の餓えを救うべき助けもないだろう。あなた自身は、これほどまでに決心されたのだか

ら、どのようにも生きていけましょうが、若い妻や幼い子供の事を、（あなたは）どのようにしなさるつもりですか」などと、言うものたちがいたが、「頼りにしていた人〔＝主人たち〕の不幸な事などがおありにならなければ、私は今までこのようにはいなかったであろう。この長年、堪えがたい事をも堪え、忍びがたい事をも忍んだのは、（私がご主人様たちのことを）主となし申し上げ、（自分が）従者となったことを考えたからである。今日給料を辞して去り、明日は妻子ら皆々離れ散ってしまうだろうことをもって、私の志の程度を見せるべき事だよ。天がもしお見通しでいらっしゃるならば、それほどまでのことにもならないだろう」と言った。正仲朝臣もどのように考えなさったからであろうか、おっしゃることも特になく、春がすぎて夏深くなって、おっしゃることなどがあって、「ただなんとかして我が家を去るような事を、（お前は）思いとどまれよ」とあったが、そうではあるが、また（私が辞職のことを）申すことがあったところに、秋の初めにいたって明卿が生まれた。

その期間をすぎて、やっと私がお願いする所〔＝辞職すること〕を許された。この時に、家に残っている資財を確認すると、青銅が三百疋、白米が三斗に過ぎない。「よしよし、すぐに餓えるということまででもないだろう」といって、妻子を引きつれて、長年の寺とその檀家の縁によって、高徳寺に行き、そのまま浅草のほとりに家を借りて移った。依然として下男と下女が従っていたのを、召し使う助けもない。（そこで、私が下男下女に）「（この家を出ていき）どのようにでもなれ」と言ったところ、（下男下女は）「私たちは慣れないことをもして何かしらの用事を必ず営みましょう。どうして（この家を）離れ申し上げましょうか、いや、離れられない」と言うのである。このようなほどに、正仲の弟のもとから、使いがきて、「そのように（あなたが）いらっしゃる時分は、家族の人を、（あなたが）養いなさるような所を（私が）差し上げましょう」といい、贈りなさった。これは長年学文の事など、（私が）お導き申し上げたことを、思いなさったからであろう。思いがけない事も出てくるので、その秋の末に、居所も城東に移ったところ、来て学ぶものも日々増えて、しかるべき人々も、就いて学ぶものが少なくない。

〔重要単語〕

○おのづから【自ら】…①**自然と。**　②**偶然。**　③**ひょっとして。**

○ほど【程】…①**程度。**　②**時間。**　③**空間**（距離・広さ）。　④**身分。**

○ぐす【具す】…**一緒に行く。**

【第五講】

〈模範解答〉

問一　1　**問二**　4　**問三**　お休みになる（六字）　**問四**　3　**問五**　1
問六　2　**問七**　4　**問八**　2　**問九**　3
問十　（イ）6　（ロ）5　（ハ）7　（ニ）2　**問十一**　（a）3　（b）2　**問十二**　う

〈現代語訳〉

（源氏の君と紫の上が）灯火をおともしになって、くつろいで並んでいらっしゃるご様子は、たいそうすばらしい。女君〔＝紫の上〕は二十七、八歳にはきっとなっていらっしゃるだろうよ、盛りで輝くほど美しく年を重ねるにつれて美しくなっていらっしゃる。少し時間が経って拝見するさまは、またこの間に美しさが加わりなさったなあと、見えなさる。あの人〔＝玉鬘〕を、大変すばらしい劣りはすまいと拝見したが、思いこみであったのだろうか、やはり格段の差があるので、運のない人〔＝玉鬘〕とある人〔＝紫の上〕とは、違わなければならないものだなあと、（右近は）思わず較べてしまう。お休みになるといって、（源氏の君は）右近をお足さすりにお呼びになる。（源氏の君が）「若い人は、面倒だといっていやがるようだ。やはり年を重ねた者同士は、心を通じさせて、仲良くしやすいなあ」とおっしゃるので、女房たちはこっそり笑う。「その通りですよ。誰が源氏さまが使い慣れていらっしゃるのを嫌がりましょうか。わざとらしい冗談を言いかかりなさるので、困りますのに」などと言い合っている。（源氏の君は）「上〔＝紫の上〕も、（私が）年を重ねたもの〔＝右近〕と、親しくし過ぎるならば、また機嫌を悪くしなさるだろうとか。そうであるはずのないお心とは思わないので、危ない」などと、右近に（親しく）話して笑いなさる。たいそう魅力的で、おもしろい気配まで加わっていらっしゃる。今は朝廷に仕え、忙しいご様子でもない御身の上で、世の中をのんびりと思いなさるのに任せて、ただちょっとしたご冗談をおっしゃり、おもしろく人〔＝女房〕の心を試しなさるあまりに、このような古参の人〔＝右近〕までもからかいなさる。（源氏の君が）「その探し出したとかいうのは、どんな様子の人か。尊い修

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

行者と仲良くなって、連れてきたのか」と尋ねなさると、（右近は）「ああ見苦しゅうございますよ。あっけなく消えなさった夕顔の露の御縁者を、見つけました」と申し上げる。（源氏の君は）「なるほど、しみじみ心にしみたことだなあ。長年の間どこに（いたのか）」とおっしゃるので、（右近は）ありのままには申し上げにくくて、「へんぴな山里に（いらっしゃいました）。昔の人（＝夕顔の女房）もいくらかは変わらないでお仕えしていたので、その頃の話をし始めまして、耐え難く思いました」などと申し上げている。（源氏の君は）「よしよし、事情をご存じない方の前で（そんなことを言って）」と隠し申し上げなさるので、上（＝紫の上）は、「ああ面倒なことです。眠いので、聞こえるはずもないのに」と言って、お袖で耳をふさぎなさった。（源氏の君が）「顔立ちなどは、あの生前の夕顔と（較べて）劣らないだろうか」などとおっしゃると、（右近は）「必ずしもそうでもどうしていらっしゃるだろうか、いや、そうでもいらっしゃるまいと思っておりましたが、はなはだしく成長につれて美しくなって、お見えでした」と申し上げると、（源氏の君は）「すばらしいことだなあ。誰くらいと思われる。この君（＝紫の上）（とでは）」とおっしゃるので、（右近は）「どうして、それほどまでは（美しくていらっしゃるでしょう、いえ、それほどではありません）」と申し上げると、（源氏の君は）「（夕顔を見つけ出して）得意顔に思っているだろう。私に似ているならば、（なお）安心だね」と、親のようにおっしゃる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕

○にほひ【匂ひ】…①**色が美しく映えること**。②かおり。③威光。
④染め色で、上から下へしだいに薄くぼかしていくようにしたもの。
○こよなし…①**はなはだしく違う**。②とてもすぐれている。③とても劣っている。
○むつかる【憤る】…①**不快に思う**。②幼児がだだをこねる。
○うるさし…①**わずらわしい**。②いやみだ。③りっぱだ。
○わづらはし【煩はし】…①**めんどうなさま**。②気づかいされるさま。③うるさい。
○あいぎゃう【愛敬】…①温和でやさしく魅力的なこと。②顔かたちがやさしくかわいらしいこと。
○かたらふ【語らふ】…①話をかわす。②**親しくつきあう**。③**男女が言いかわす**。④誘い入れる。
○げに【実に】…①現実に。**なるほど**。②**ほんとうに**。まったく。
○うしろやすし【後ろ安し】…（将来に）心配がない。**安心できる**。頼もしい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第一講　解答解説

〔解説〕

① 月の異名。「長月」は九月。よって、正解はニ。二〇一二、二〇一三年と連続で、月の異名や季節が出題されていた。古文常識もきちんと押さえておくこと。

② 重要単語も頻出。取りこぼさないように、確実に得点しよう。「あてなり」・「あてはかなり」は「上品だ・高貴だ」の意味。漢字「貴なり」で覚えておくとよい。よって、正解はホ。

③ もう一題、重要単語の問題。形容動詞「らうたげなり」は、形容詞「らうたし」の派生語。「らうたし」の語源は、「労」＋「甚し（いたし）」。「労」は「いたわる」、「甚し」は「程度がはなはだしい」の意味。世話をして、いたわってやりたい様子＝「かわいい、いとおしい」。よって、正解はロ。

④ 文学史。「先師」とは「すでに亡くなった先生・師匠」のこと。向井去来は松尾芭蕉の弟子である。よって、正解はロ。ちなみに本設問は、本来は選択肢ではなく「人名を漢字で答えよ」という問題であった。同じ年度の他学部でも「松尾芭蕉」を漢字で答えさせる問題が出題されていた。俳諧の基本的な知識は押さえておくべきであろう。選択肢のイ、ハ、ニはすべて松尾芭蕉の弟子である。

⑤ 空欄補充の問題。設問文や選択肢からも、係助詞や、呼応の副詞などの文法問題ではないことがわかるが、解くためのヒントが空欄の前後にあるのは同じ。二つの和歌の共通の言葉「煙」に気付くと、正解はすぐに導けるであろう。最初の和歌の「ほのほ」＝「炎」もヒントになる。どちらも「火」に関わるので、正解はニ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑥

問1　和歌の空欄問題。和歌の場合は、字数をある程度のヒントにできる（和歌には「字余り」などもあるため、絶対とは言い切れないが、ただ、空欄補充の問題になっている解答箇所が「字余り」や「字足らず」になっているものを今まで一度も見たことがないので、ヒントの一つとしては使えるであろう）。設問文の能因法師の和歌は有名なので、知っている人にとってはすぐに答えを選べる問題であろうが、もし知らなかったとしても、「字数と空欄の前後に手がかりを探す」という、いつもの方法できちんと解ける。まず、字数は上や下から区切っていくと三文字になることがわかる（イ、ハ、ホに絞る）。下の句で、白河の関では秋だということがわかる。三句目「たちしかど」の最後が逆接の接続助詞「ど」であることから、都を出発したのは秋ではないこともわかる。では秋以外のいつの季節に「何」と一緒に旅立ったのか。空欄の前後に手がかりを探すと、三句目の「たち」が、「都を旅立つ」の「たち」と、「春霞が立つ」の「たち」の掛詞に気付けたかがポイント。空欄補充に、和歌の修辞技法も絡ませた問題である。よって、正解はホ。

問2　こちらも知っていれば、すぐに解ける知識問題でもあるが、知らない場合もきちんと解ける。問1を踏まえているので、同じく逆接を使う。「都を夜に出発したのだ**けれど**」ということは、もう夜ではない。では、いつなのか。そのまま、傍線部の後ろに手がかりを探すと、僧が女に「明けはなれなば（＝もし夜がすっかり明けたならば）（「なば」の「な」は「完了の助動詞の未然形」）」と言っているので、今はまだ夜はすっかり明けきってはいない。よって、前後をきちんと読むと、選択肢ニ「夜明け方」が最適とわかる。

〔解答〕

①　ニ　②　ホ　③　ロ　④　ロ　⑤　ニ　⑥　1　ホ　2　ニ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二講　解答解説

〈解説〉

①　文法問題。選択肢を横に見比べて違いを探し、わかりやすいところから解く。

i　この場合は「べし」と「む」の接続と、係り結びの「結びの形」を使うと解きやすい。「候ふ」の活用形が、連体形と終止形に分かれているが、助動詞「べし」が接続しているので、終止形。よって、イとニは削る。次に、「べし」の活用形が、未然形と連用形に分かれている。「ん」（＝選択肢から助動詞「む」）が接続しているので、未然形。よって、さらにホも削る。「む」の活用形が、終止形と連体形に分かれているが、係助詞があるので文末は連体形。よって、正解はハ。

ii　同じく選択肢を横に見比べる。「せんず」という動詞はないのでホは削る。「んず」の部分を、「『むず』で一語」か、「『む』と『ず』」に分ける」かだが、助動詞「ず」の上は必ず未然形なので、助動詞「む」に接続することは不可。よって、「むず」で一語。あとは、「らむ」の識別。「らむ」の上がu段なので、「らむ」で一語の現在推量の助動詞。よって、正解はロ。

②　「なむ」の識別。

i　上が連用形なので、強意（完了）の助動詞「な」と推量系の助動詞「む」の確述用法。選択肢が、さらに「む」の意味を「推量」か「意志」かに分けている。「と」の上の「む」なので「意志」が多い。念のため本文を確認すると、後ろで同じ人物（敬語で判断）が髪を切っていることから、やはり「意志」。よって、正解はロ。

ii　上が、助詞「と」なので、強意の係助詞「なむ」。よって、正解はニ。

③　重要単語。「年ごろ」は「数年・長年」の意味。よって、正解はニ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④『今鏡』のジャンルは「歴史物語」。「歴史物語」＝『栄花物語』『大鏡』『今鏡』『水鏡』『増鏡』は知っておくべき。よって、正解はホ。

⑤『無名抄』は、鴨長明が書いた歌論書。よって、正解はハ。

〔解答〕

①ｉハ　ⅱロ　②ｉロ　ⅱニ　③ニ　④ホ　⑤ハ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第三講　解答解説

〔解説〕

① 「ゆかり」は重要単語で、「血縁・親戚」の意味。よって、正解はニ。

② 「あやし」も重要単語で、「不思議だ・粗末だ・身分が低い」の意味。よって、正解はニ。

③ 「だに」の下に意志、仮定、願望、命令の表現があれば、その「だに」は「最小限の限定（せめて～だけでも）」。「見むと思ふ」の「む」は「と」の上にあり、「～（し）よう」と訳しておかしくないので「意志」。よって、この「だに」は「限定」となる。「だけでも」をきちんと訳出しているイが正解。ちなみに、「だに」のもう一つの意味は、「類推（～さえ）」。選択肢を確認すると、「～さえ」と訳しているものもなく、「だに」の訳出をしているものは、結局イのみである。

④ 「掛詞」は「不自然な平仮名」になっている場合が多いが、本設問のように全部が平仮名であれば、掛詞として「よくあるパターン」に気をつけながら、意味を考える。上からのつながり、下へのつながりで考えていくと、「しらゆきのふりにしひと」の部分が、「白雪の『降り』」と「『古り』にし人」と掛詞であることに気付ける。よって、正解はハ。中央大は和歌が頻出であるので、和歌の修辞技法をきちんと学習しておくこと。（「センター対策講座」の第二講が「和歌特集」なので、和歌が苦手な人は参考にしてください。）

⑤ 「なり」の識別。1は「あなり」なので、「伝聞・推定」の「なり」。選択肢が「伝聞」と「推定」に分かれているので、文脈判断がいるが、本設問では「読経して」と音がはっきりわかるものなので「推定」の「なり」とする。よって、正解はニ。中央大は、このように選択肢が「伝聞」と「推定」に分かれている場合が多いので、「音」情報があるものなのか、人の噂

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

話などで伝え聞いたものなのか、文脈判断もお忘れなく。２は「あはれなり」で一語の形容動詞。よって、正解はロ。３は上の文字が「に」で「なる」と訳せるので、動詞。よって、正解はホ。「なり」の識別は、二〇一二、二〇一三年と二年連続で出題されていた。識別問題で点を落とさないように、識別の仕方をきちんと頭に入れておきましょう。

〔解答〕

①　ニ　②　ニ　③　イ　④　ハ　⑤　１　ニ　２　ロ　３　ホ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第四講　解答解説

〈解説〉

① 「とみ」は重要単語で、「急」の意味。よって、正解はニ。

② 「年ごろ」・「行ひ」も重要単語で、それぞれ「長年」・「仏道修行」の意味。単語だけでも解けますが、「なん（＝なむ）」の識別に注目してみると、四段動詞「なる」の連用形についているので、確述用法。「完了」ではなく「強意」なので、まだ終わっていない。よって「〜た」という訳になっているイとニは少なくとも削れたはず。全てをきちんと踏まえた解釈はロ。よって、正解はロ。

③ 「道心おこす」は「発心」のことなので、「発こす」が正しい。よって、正解はハ。出家関係の古文常識や単語を、きちんと押さえておくこと。

④ 「九日」なので九月九日の「重陽の節句」のこと。よって、正解はホ。ちなみに、イ「中秋」は八月十五日。ロ「上巳」は三月三日。ハ「踏歌」の節会は正月行事。「男踏歌」は一月十四日か十五日。「女踏歌」は一月十六日に行われた。ニ「端午」は五月五日。ハ「踏歌」以外は知っておくべきである。

⑤ 『大鏡』の語り手なので、イ「夏山繁樹」か、ニ「大宅世継」であることはわかってほしい。本設問は、さらに「派生的なエピソードの語りを受け持つ人物」まで問うている、なかなかマニアックな文学史問題である。が、『大鏡』が別名として『世継物語』や『世継の翁が物語』と呼ばれていることを知っていれば、派生的なほうが繁樹ではないかと予測はできるはず。正解は、イ「夏山繁樹」。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑥『古来風体抄』は藤原俊成の歌論書。よって、正解はハ。ちなみに、イ、ロの『金葉和歌集』の撰者は源俊頼。

⑦『沙石集』は、鎌倉後期の仏教説話集。よって、正解はイ（『日本霊異記』は、平安初期の仏教説話集）。ちなみに、ロ『菟玖波集』は、南北朝期の連歌集。ハ『愚管抄』は、鎌倉前期の歴史書。ニ『明月記』は、鎌倉時代・藤原定家の日記、ホ『無名抄』は鎌倉時代・鴨長明の歌論書。

⑧新井白石の随筆は、『折たく柴の記』。よって、正解はハ。ちなみに、イ『万(よろづ)の文反古(ふみほうぐ)』は、江戸中期・井原西鶴の浮世草子。ロ『花月草紙』は、江戸後期・松平定信の随筆。ニ『英草紙(はなぶさそうし)』江戸・近路行者（＝都賀庭鐘(つがていしょう)）の読本。ハはもちろんのこと、ロも知っておくべき（イ・ニはいらない。ただし、井原西鶴の浮世草子「好色物」（『好色一代男』など）や、「町人物」（『世間胸算用』・『日本永代蔵』など）の知識は必要）。

〔解答〕

①　ニ
②　ロ
③　ハ
④　ホ
⑤　イ
⑥　ハ
⑦　イ
⑧　ハ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第五講　解答解説

〔解説〕

① 呼応の副詞「さらに〜打消」で「まったく〜ない」の全否定。「すべておぼえざりければ」なので、「まったく思われなくなったので」。よって、正解はニ。

② 「で」は、打消接続の働き「〜ないで」。「見で」なので、「見ないで」。「いかでか」と疑問が重なっているので反語になりやすい形。さらに選択肢に疑問がないことから反語確定。「見ではいかでかあらむ」は「見ないでいられようか」。よって、正解はイ。

③ 「あからさまなり」は重要単語で、「ちょっと・ほんのしばらく」の意味。よって、正解はロ。

④ 1は、a段に付いているので助動詞「る」。上に「この者どもに」とあるので、受身。よって、正解はイ。
2は、助動詞「らる」の連用形。上が「思ひ続け」と心情語なので自発。よって、正解はホ。

⑤ aは「に」の識別。体言に付いており、下に「あらむ」の「あり」があることから断定。よって、正解はハ。
bは「ぬ」の識別。連用形に付いているので完了の「ぬ」。よって、正解はイ。

〔解答〕

① ニ　② イ　③ ロ　④ 1 イ　2 ホ　⑤ a ハ　b イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。